

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人社団大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑 1号館		
所在地	阿蘇市一の宮町宮地5863-1		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」私たちは人々に灯火と明かりと輝きをもたらします」の理念のもと入所者様が安心して過ごせるよう心掛けています。当施設は病院併設のグループホームのため、病院と密な連携があり、概往歴があっても安心して入所できる。また、院内にはOT・PT・ST、管理栄養士がいるので何かあれば相談できる環境にあり、入所者様を皆で支えている。広い敷地で桜や向日葵など四季折々の花や景色を楽しむことができる。静かなゆつくりとした雰囲気でも個人的に重視したケアを提供している。また、職員も有資格者である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な阿蘇の山々に見守られながら、趣の異なる両ユニットが互いに協力しあい、手入れの行き届いた敷地は入居者の散歩等外気に触れる機会を後押ししている。母体医療機関をかかり付け医とされていた入居者も多く、定期的な診療や急変時の対応、PTから受ける指導やアドバイスなど本人・家族、職員にとっても安心に繋がっている。勤務年数の長い職員も多く入居者と職員が馴染みの関係は異常の早期発見や希望等の把握として生かされ、超高齢化しても身だしなみや節目の誕生日前に髪染めや歯科治療の要望される等、“自分らしい生活”の支援に直結させている。また、臥床中心の入居者にはベッドの位置や向きを検討し、日光を浴びる姿勢や目に付きやすい位置への掲示など、本人の思いや気持ちを察した居室作りが行われている。阿蘇神社をはじめ地域資源を活用した外出や帰省など入居者も心待ちにされていると思われ、感染症終息後の取組が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし苑内に掲示して理念の意識付け再確認を行い、ご利用者様本位のサービスを提供できるようにしている。また月目標として理念に基づいた具体的な目標をスタッフで考えケアに反映させている。	開設時から「一隅を照らす」を前提に、具体化した基本理念とともに、謙虚な心を忘れずにケアに当ること等法人全体の月間目標を立てることで意識を強化させている。また、コロナ感染症対策を徹底し、各ユニットともに最高齢104歳という超高齢化にあっても思いが寄せられるように職員が寄り添う姿勢を持ち、これまで出来ていたことがホームでも出来るように見守る姿勢は“その人らしい生活が生涯送れますように…”とする基本理念の一つの実践であり、入居して13年という長い入居歴に職員のケア姿勢が表出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域との交流は出来ていないが、隣保班の方が毎月、広報誌を届けて下さり、入居者様の様子を気にかけてもらっている。散髪はコロナ感染の状況を見ながら地域の美容師さんに感染対策をしてもらい行ってもらっている。	ホームとしてはコロナ禍により地域との関わりは難しい状況にはあるが、地域住民に見守られながらホームでの生活が出来ている。入居されても毎月広報誌を持ち届けながら様子を確かめられる隣保班の方や、中学校からは入居者一人ひとりに年賀状が届く等これまで築き上げた地域との関係性は確かなものである、	地域からの野菜の差し入れ等これまで通りの関係にあり、コロナ感染症の緩和により、地域との交流再開に向け始動されることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染のこともあるので発信がなかなか出来ていない状態だが、2カ月に1度、地域の方に施設の現状報告を行い認知症の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが流行してからは感染予防のため書面の送付にて行い、取り組みなどを報告し意見、要望を受けサービスの質の向上に努めている。5月からは対面での会議を再開する予定である。	運営推進会議はコロナ感染拡大防止の為、書面審議として、活動や入居者の動向、事故・ヒヤリハット等を報告し、意見等を収集する体制としている。	次年度からは、対面での開催を行う予定で有り、運営推進会議の中での意見等をケアサービスに反映されること期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなどがあれば市役所担当の方へ直ぐ連絡助言をもらえるよう協力体制を築いている。	行政から運営推進会議の問い合わせや電話やメールを通じて連絡を取りあう関係が築かれ、地域包括支援センターと毎月情報交換を行い、生活保護担当部署や権利擁護では社協と連携する等入居者を取り巻く関係機関と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の院内研修を行っている。またどのようなケアが行えるかスタッフ間でも話し合っている。利用者様の尊厳を第一に考え、自由に生活を送ってもらえるよう支援している。	コロナ禍で集まることが難しく、資料を基に各人が勉強する体制とし、同法人の地域密着型事業所の管理者をメンバーとする身体拘束適正化委員会で検討している。転倒リスクの高い入居者に見守りセンサーや人感センサーを使用しているが、家族の同意を得ている。また、外に出るときには“外に行ってくる、言っても良いか”等職員に話しかけられており、職員との馴染みの関係や自由に出かける事が出来る環境が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修に参加し意識の向上に努め苑内の虐待や拘束が見過ごされることが無いよう防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修を行い知識の向上に努め食事を始めご家族様などにも周知を図れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様、ご利用者様に分かりやすく説明し理解、納得をいただいている。その都度疑問点や不安が無いかな訪ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に意見やご要望を尋ねている。またそれを会議で話し合いをし運営に反映させている。	家族との関係の継続に、担当職員からの手紙や新聞、電話等定期的な情報発信を行い、窓越しでの面会ではあったが訪問時に要望等を聞き取りしている。コロナやインフルエンザワクチン接種の同意を得る為の連絡や突発的な病院受診時等緊密に連絡することで家族の不安払拭に努め、会えない状況を家族も理解して下さる等家族との良好な関係性が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議に管理者は、出席し議事録を職員へ閲覧している。職員からの意見、提案は申し送りや日頃のコミュニケーションの中で聞けるような環境作りを心がけている。	日々のケアの中で職員から提案が上がる等各ユニットの管理者は職員とのコミュニケーションを図り、管理者及び職員は長い勤務歴や退職も無いことは働きやすい環境が整備にあることが表出している。1年間の目標を掲げ、具体化するために何をしたらよいかを考えることで意識を高めている。また、管理者は法人の運営会議に参加し、職員へフィードバックし情報を共有している。ホームへの出入りが出来ないことで家族との対面での面会もままならない状況にあったが、職員が注意を怠らなかつた結果として入居者が罹患も無く穏やかな生活に表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を実施しそれを基に職員個々の努力、実績について話し合えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスが流行してからは人間的に不安定だったり、研修案内が少なく、研修に行ける状況ではなかった。その中でも行ける研修(感染対策等の研修)には積極的に参加。今後は、院内外の研修に参加できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染予防のため会議は中止中であるが書面を通じて情報交換・収集を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段のケアや会話においてご本人様がやってみたいことや困っていることを聴き要望としてケアに反映させている。また家族にも面会時質問や希望がないか尋ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	苑に入られるにあたりご家族の気持ちを聴き取り受け止め安心していただけるよう説明すると同時にケアへ反映している。面会時や手紙にて日頃の情報を報告しその際家族から新たな情報などをいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族より情報や希望を聴き取り関係機関と連携を取りながらご本人様の望む支援ができるよう医師・看護師・施設代表・管理者・ケアマネで話し合いどんなことが必要か見極め支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてご本人様ができる事・好まれることを職員も一緒に行い一方的な押し付けではなくご本人様の生活の一部となれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙にて状況報告行うと同時にご家族様より情報をいただき連携しながら支援にあたり、ご本人様、ご家族様の絆を途絶えさせないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様、面会に来られた友人の方などの会話において、昔大切にしてきたことや場所・習慣を聴き取り、情報を得てその関係や習慣が途切れないように支援することを心掛けている。	入居者に残っている記憶や、周囲と繋がることで安心を感じるとして家族や訪問される近隣住民等からの情報を生かしている。毎月の地域の広報誌を持ち届けられる近隣住民や、昔は行かれていたであろう阿蘇神社参拝も難しい状況に鳥居を手作りする等職員が工夫しながら馴染みの場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活が楽しく・穏やかに過ごせるように職員が間に入りながら、利用者様間の関係構築ができる環境作りに努めている。また他ユニットとの交流を大切に多くの関係作りができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会でご本人様の様子を伺ったりご家族様とお話をさせていただいたりしている。またその際、またその際相談などがあったときはアドバイスや関係機関の紹介をするなど継続した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様・ご家族様の要望や思いを聴きカンファレンスを行い職員全員で考え、情報を共有し、より本ご人様本位の支援ができるように努めている。	自分の意思を持って生活される入居者もある一方で、言葉を発することが難しい入居者に簡単な言葉が聞かれると今日は元気そうだと等と推察しながら、ケアに反映させている。超高齢化にして自分でやりたいことや思いを伝えられる様子を、職員の寄り添うケア姿勢が表われ、しぐさや表情から把握することで安心した生活へ生かす等本人本位の生活を提供できるように情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様・関係機関より話を伺い、今までの生活スタイルの把握を行っている。また傾聴、様子観察を通して新たな情報を見つけ出しよりご本人様らしく生活できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、行動・様子観察を行いお一人お一人の日常生活の把握に努めている。異変がある際には母体病院と連携し早期対応を行い、安心して穏やかな生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望や必要な支援についての情報や方法など職員間で共有している。担当スタッフによるモニタリングを行い、ケアマネが評価をしケアプランの見直しを行いよりご本人様らしく生活できるような支援へと反映させている。	本人・家族の意向を把握し、楽しみのある生活として音楽を流すことで楽しみのある時間を作る等メリハリのある生活に反映させる等半年毎に見直し、再作成するプランは具体的で詳細なプランである。臥床中心の入居者には、異常の早期発見や皮膚トラブルや拘縮を防ぐ為理学療法士の意見をもらう等入居者に関わる各関係者の意見をプラン作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間と1日を通して様子観察や行動について記録を行い、申し送りにて職員全員で情報共有し利用者様1人1人に合わせた支援へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に隣接しているためその時々々のニーズに合わせて医師・看護師・栄養士・OT・PTなど専門職に相談を行い助言を載げながら利用者様に合わせた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さくら苑に入所されても隣保班の方が気にかけて毎月様子を見に来られたり、地域の方に散髪に来てもらったりしている。コロナが落ち着けば、以前来てもらっていた、衣料品店の出張販売なども再開したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月母体病院での受診にて健康チェックを行い体調維持の管理に努めている。また入所前のかかりつけ医などがある際には継続して受診できるよう支援している。	母体医療機関への受診や入居前の医療機関へ職員による支援が行われている。また、主治医の指示による専門医への受診を職員が対応している。家族へは受診結果や2か月間の様子は担当者からの報告書に記し、特変があればその都度速やかに連絡している。歯科は家族の要望により訪問による治療や口腔内チェックが行われている。歯の状態は口腔ケア時に職員が気づくことがあるが、自ら「歯の調子が悪いので歯医者さんを呼んで欲しい」と伝える方等もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の健康チェックを行い朝・夕の申し送りにて報告している。体調変化や急変があればその都度報告し指示もらっている。また、夜間の急変時に備えたマニュアルを作成・活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には口頭、書面による申し送りを行い情報の交換を行っている。入院時にはこまめな面会を行い利用者様とコミュニケーションを取るとともにナースや相談員と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になった際には母体病院と連携を図りご家族様を含めて話し合いを行いその人らしい最後が迎えられるように支援している。	入居時に指針をもとに、家族と主治医との話し合いにより看取り支援も行うことを説明しているが、本人の状態(苦しまれるなど)によっては医療機関での対応を望まれている。現状としてはホームに出来得るギリギリまで支援し、その後は母体を中心に医療機関へ転院されている。	母体医療機関の存在は家族の安心するところであり、今後も法人との連携を図りながらホームに出来得る支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時・事故発生時には母体病院と共に作成したマニュアルを活用し、全職員が緊急対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害を想定した訓練を定期的を実施しスムーズな避難ができるようにしている。また、母体病院と緊急避難行うようにしており、法人全体での協力体制を築いている。	今年度は前期訓練を病院本体と合同で、後期を2号館より出火想定で実施し、職員同士の連携や、消防が着くまでの初期消火の大切さを改めて知る機会としている。9月の台風接近後は災害備蓄を見直し、大型ブルーシート、養生テープを追加補充し、災害時の食備蓄はリストをもとにホームで確保している。また居室などの安全チェックは担当職員が中心に行っている。	確保している食備蓄を今後は入居者にも提供していきたいとしている。自然災害については運営推進会議での情報を得て、地域との訓練に繋がていられる事を期待したい。双方のユニットは造りやホーム内の状況も異なる事から、避難方法については消防署のアドバイスを受ける事も良いと思われる。今後の取組が期待される。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で1人1人個人差があらわれるのでプライバシーに配慮し言動注意して個々にあった声掛けを心掛けている。	入居者個々の尊厳やプライバシーに配慮した声掛けを心掛けているが、職員の言葉使いを考える機会を作り、優しい声かけが基本であることを統一している。呼称は苗字や下の名、フルネームなど個々に応じて対応している。入居後もこれまでやってこられた身だしなみやおしゃれが変わらず取り組めるよう、衣類の選択や訪問理容などにより支援している。100歳を過ぎられた方が、誕生日を前に「髪を染めたい」と要望されており、変わらぬ整容への気持ちを今後も大切に支援していきたいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で伝えることのできない利用者様に対して、日々のケアの中で表情、行動での反応を観察し支援するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその日の状態、体調に合わせその方が何に興味を持っておられるのか、例えば家事手伝い、洗濯物たたみなど無理せず参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の散髪に毎日の整容や化粧、整髪などその方の好みに合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きやお盆拭きなど利用者様に無理せずできる範囲内で手伝っていただいている。また、個々の嚥下状態に応じ食事形態を変え提供している。	献立は母体医療機関の栄養課の献立とし、専任者2名を中心に調理されている。朝食は各ユニットで作っているが、昼・夜は2号館で両ユニット分の調理を行っている。入居者は丼物やカレーなどを好まれ、その時は残菜が殆ど出ないようである。入居者が普段の調理に関わる機会は難しいが、テーブル拭きなどできる事に取り組んでもらっている。また、特産の阿蘇高菜の作業を語り合う等、地元ならではの保存食について賑やかな時間になるようである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと、1日の食事カロリーや栄養を考え提供している。水分量を把握しゼリーなどを利用し水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、自分で難しい方はスタッフの介助のもとケアしている。義歯は毎晩、洗浄薬を使用し洗浄行っている。歯科往診にも来ていただき義歯の調整口腔内検査も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインを出される方にはその都度の誘導を行っている。また排泄チェック表を用いて利用者様1人1人に合わせた排泄パターンを把握し、その人に合わせた声掛けや誘導で失敗やおムツの使用頻度を減らしている。	入居者個々の排泄パターンを共有し、定時の声掛け・誘導や、表情から察したり訴えをされる方にはその都度誘導を行っている。日中や夜間での排泄用品の使い分けもユニット間で検討している。個々に応じた排泄支援により失敗を減らすことで尊厳や排泄用品への負担軽減にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立作成とこまめな飲水を行っている。日中の体操や腹部マッサージで腸の動きを促している。また主治医と相談をし緩下剤のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回のペースで、利用者様の体調に配慮しながら1番風呂が好まれる方など希望に添えるよう入浴していただいている。清拭やシャワー浴などの対応もしている。	入浴は職員とゆっくり会話ができることが楽しみとなっており、一番風呂への希望等に応じながら週3回の支援が行われている。足腰の筋力が低下され「浸かると怖か！」と言われる方には、バスタオルでの保温や足浴、かけ湯をしっかりしながらシャワー浴を中心に行われている。また、介護度が高くなられた方には、男性職員が安定して支援することで安心されるようである。冬至には職員が持ち寄った柚子を使った風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢のため利用者様の体調や状況に合わせて、午前・午後の臥床を設けたりしている。就寝具は個々の持ち込みにて安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにはさみ常に確認できるようにしている。薬の変更があった際には申し送りを徹底して把握を行い、与薬の際はスタッフ2名で呼称確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様1人1人にあった楽しみやすごし方を考え支援している。それに加え、月の行事や誕生会に参加いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在新型コロナウイルスの感染防止のため外出は行えていないが暖かい日には苑周辺の散歩にお誘いし外気浴をしている。	感染症への対応から外出は控えているが、天候の良い日は手入れが行き届いた敷地内の散歩など外気に触れる機会をもっている。入居者の中には「行ってくるね！」と外出を要望され、職員と苑内散歩を楽しむ方もおられるようである。居室での生活が中心となり外出が難しい入居者には、ベッドの位置や向きを工夫し、採光を感じられるよう配慮している。	コロナ感染症が落ち着けば、家族との外出や外泊が出来ることと期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のご利用者でお金を管理されている方はおられない。(お金を管理できる能力が乏しい。)以前は売店に行くために自分でお金を持たれていたが、今は特に要望がないがまた、外出ができるようになったら声かけしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取次ぎをし話していただいたり要望があればこちらからテレビ電話や手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が制作された絵画や生け花をテーブルや壁に飾ったりし季節感を取り入れている。共用の空間ではテレビやラジオの音が大きすぎて混乱などないようにしている	ユニット内は双方の職員が工夫し、入居者も一緒に壁面を作成しており、正月は神社の鳥居やだるま、中学生からの年賀状や、8・9月は夜空の花火など季節に応じた作品が掲示されている。掲示物は広報誌でも紹介されており、訪問を控えている家族にとってホーム内の様子を知る機会となっている。リビングは食事やテレビを見たり、入居者同士や職員との談笑の場でもあり、温度調整やテレビの音量などは、不快にならないよう配慮している。また感染症への対応から掃除や換気の徹底と、必要な消毒が継続されている。	経年と共に物品が増えたり掲示物の損傷なども発生する事から、今後も定期的な見直しの機会に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には使い慣れた家具を設置、使用している。一人なれ自由な時間を持てるようになっている。またホールでは他利用者の方と一緒に会話できるような環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前より慣れ親しんだ家具や思い出の品物、写真など持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただけるようにしている	馴染みや思い出の品の持ち込みを依頼している。中には入居前に職員が自宅の状況を見に行き、家族の写真など思い出の品をホームへ持ち込んだ例も聞かれた。居室は安全に過ごせる環境に努めており、転倒リスクの高い方には個々の動きを職員が試してみても感知センサーの置き場所を決定している。また、居室での生活が中心になられた方にも居心地よく過ごせるよう検討している。。	面会を控えている家族にとって居室内の状況は気になる点と思われる。引き続き家族の安心につながる発信や、感染症の状況を見ながら以前のように家族が居室内の整備に取り組めるような働き掛けを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、居室に手すり等配置し自立している方車椅子の方、ともに移動や立位など安全にできるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療宇法人社団 大徳会		
事業所名	大阿蘇病院グループホームさくら苑		
所在地	熊本県阿蘇市一の宮町宮地5857-7		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」の病院理念のもと利用者様が安心して穏やかに過ごせるよう支援している。病院併設の施設のため、24時間体制で連携しており、急変時には速やかな対応が可能となっている。院内には様々な職種の職員がいるため、何かあればすぐに相談できる環境にあり、病院全体で利用者様を支えている。建物は雄大な阿蘇山を目の前に南向きの建物となっており、あたたかな日差しの中で生活を送られている。四季折々の木々や花、景色を楽しむことができる。静かでゆっくりとした雰囲気の中で個別ケアに重視したケアを提供している。職員も介護福祉士、ケアマネ、看護師、准看護師等の有資格者がいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念に掲げ、苑内に掲示いつでも見て意識してご利用者様主体のサービスを提供できるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域との交流は出来ていないが、隣保班の方が毎月、広報誌を届けて下さり、入居者様の様子を気にかけてもらっている。散髪はコロナ感染の状況を見ながら地域の美容師さんに感染対策をしてもらい行ってもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染のこともあるので発信がなかなか出来ていない状態だが、2カ月に1度、地域の方に施設の現状報告を行い認知症の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが流行してからは感染予防のため書面の送付にて行い、取り組みなどを報告し意見、要望を受けサービスの質の向上に努めている。5月からは対面での会議を再開する予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことなどがあれば市役所担当の方へ直ぐ連絡助言をもらえるよう協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置、院内研修や、苑での研修を行い、入居者様が安心して自由に生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて関連法について学ぶ機会を持ち、日頃のケアでそのようなことがないように努め、注意、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持ち、把握、知識の向上に努め、必要であればご家族へ周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書に沿って、分かりやすい言葉で説明し、入所してからもご家族からの疑問、不安等はいつでも聞き、理解、納得できる機会を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時において意見、要望を言えるような環境作りに努め、必要であれば、関連職と連携及び職員会議を開き対応を進めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議に管理者は、出席し議事録を職員へ閲覧している。職員からの意見、提案は申し送りや日頃のコミュニケーションの中で聞けるような環境作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施している。また、働きやすい環境を作れるよう、勤務時間、勤務形態、公休、有休が自由に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスが流行してからは人間的に不安定だったり、研修案内が少なく、研修に行ける状況ではなかった。その中でも行ける研修(感染対策等の研修)には積極的に参加。今後は、院内外の研修に参加できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿蘇GH協議会の定期的な会議が開催されておらず、勉強会なども出来ていない。今後、コロナウイルス感染状況によって開催された時は以前のように他の施設との交流、情報交換ができていけるのではないかと思う。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、不安なこと、困っていること、要望などを本人(無理な時はご家族から)から聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や、面会時、電話などで本人様の普段の様子や、ご家族様の想いを聞き、信頼関係が気付けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族、関係機関と情報を共有しケアマネ、職員などでその方にあつた支援を話し合い、今、必要なサービスを見極め、提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と同じ目線に立ち、一緒に笑ったり、話をしたり、利用者様の気持ちに寄り添った対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話時に利用者様の様子、体調を伝えている。また、電話があつた時はご家族と話をしてもらうよう繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会ができず、玄関からフィルム越しに顔を見てもらっている。あるご利用者様の近所の方は毎月広報誌を持参、本人の様子を気にかけてくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきりの方もいらっしゃるが、行事の時は調子が良ければその時だけ起きてもらい参加してもらっている。誕生会ではみんなでお祝いしている。利用者様同士の関係が上手くできるよう、職員が間に入り関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様、ご家族と関わる機会があれば、話を聞いたりして、継続した関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の訴え、判断を主として捉え、本人に合わせたケアを行っている。また、自分で訴えることが困難な場合はカンファレンスを行い、本人本位に検討し、支援している、		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活、サービス、生活環境などを把握し、職員間での情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別で日々の記録を行い、月に1度カンファレンスをや、毎日の申し送り等で利用者の心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者別で担当が付き、ニーズに沿ったアセスメントを行っている。また、家族からの要望も定期的に聞き、介護計画に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い、情報を共有。利用者の心身の変化に注意し、プランの評価を行い本人に合わせたプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の変化、家族の状況を踏まえ利用者や家族のニーズにプランが合っているかまた、きちんと実践できているかどうかモニタリング、評価を行い利用者様に合わせたサービス、ケアを話し合い、サービスの提案、作成をし、提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さくら苑に入所されても隣保班の方が気にかけて毎月様子を見に来られたり、地域の方に散髪に来てもらったりしている。コロナが落ち着けば、以前来てもらっていた、衣料品店の出張販売なども再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設ではあるが、入所前に他の病院がかかりつけの場合はそのまま継続してもらって、適切な医療が送れるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に何か異変があれば日中は外来Nsへ、夜間は病棟Nsへ連絡し、必要時はDrから指示をもらったり、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報を書面や口頭で申し送りし、情報交換を行っている。入院中は定期的に病棟へ本人様の様子を伺い、一日も早く苑へ戻れるように相談員、看護師へ相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の指針に基づき家族へ説明、同意書を交わしている。利用者様の心身状況に応じ、その都度事に家族と話し合い、母体病院と連携し本人、家族の望まれる最も良い支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時はマニュアルに沿って外来や、病棟へ報告、相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した訓練を母体病院と連携して行っている。地震、水害時のも母体病院へ避難した経験がある。病院が主体となるため、地域の方が参加しての訓練ができていないので今後の取り組みとして取り組んでいきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何をしたら不快に感じ、思うのか、どうしてほしいかを考慮し、一人一人の思いを尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定ができるような声かけをしたり、また、自分で伝えることが難しい利用者様に対しては表情や行動、反応を注意深く観察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせず、利用者様のペースや望まれることを日々の状態や体調に合わせて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば散髪や、髪染めなど行っている。化粧、スキンケアなどその方の希望に合わせて声かけしたりいつでもおしゃれできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番の楽しみなので、美味しく食事ができるようにその人に合った食事形態で提供したり、スムーズに食べれるように口腔体操をしている。また、嫌いなものも把握し、代替品で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	臥立は母体病院の管理栄養士に依頼。1300kcal前後で摂取している。食事量、水分量もチェック表にて確認している。食事が摂取できるようスプーンは当たってもいたくないシリコン製にしたり、お茶を好まれない方は他の飲み物を提供するなどして一日を通じてバランスよく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは自分で出来ない方へ職員による確認、仕上げ磨きをしている。自歯の方はご家族にも相談し、毎月の往診で口腔ケアや、歯石取りなどを行いメンテナンスを行っている。義歯の方も状態に合わせ、調節や、修理してもらっている。利用者様にあったケア用品のアドバイスや、口腔体操などの指導もしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排尿間隔を把握し、定時でのトイレ誘導をしている。安易にリハパンに変更するのではなく、カンファレンスを行い、なるべく布パンツで過ごしてもらえよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、こまめに水分を取ってもらったり、牛乳、乳酸飲料、ヨーグルトなど薬に頼らない排便を目指している。また、歩行可能な方は運動してもらったりと個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日のペースで計画は立てているが、本人の気分や、体調を考慮している。入浴困難な時は足浴や、清拭などで対応している。一人ずつの入浴のため、職員と世間話をしながらゆっくり入浴できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や、体調に合わせて臥床時間を設けている。ひざ掛け、クッションを使用し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに服薬説明書を挟んでおり、いつでも確認できるようにしている。受診時、臨時薬が出るたびに更新している。服薬時は誤薬がないようにWチェックを行い与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭きや、洗濯物たたみを日々の日課とされている方がいるのでスムーズにできるよう、毎日、準備を職員で行っている。季節の行事、誕生会など定期的に行い、楽しんでもらえるよう計画している。売店へ好物を買いに行ったり気分転換や、楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出はほとんどできていない。感染が落ち着いてまた、自宅へ外出したり家族と出かけたりできるようになればと思う。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のご利用者でお金を管理されている方はおられない。(お金を管理できる能力が乏しい。)以前は売店に行くために自分でお金を持たれていたが、今は特に要望がないがまた、外出ができるようになったら声かけしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持たれている方は話をされている。使い方が分からないためお手伝いが必要。また、ご家族から電話があった時は声かけし、話してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は過ごしやすいよう室温を調節したり、まぶしくないようカーテンを閉めたりしている。季節感が分かるよう、ホールの一角に季節の飾りつけをしている。ソファの一角に季節の飾りつけをしている。ソファに座られている時は各々でひざ掛け、クッションを使用し居心地よく過ごしてもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のソファの場所を決め、定位置としている。気の合う人話ができる人など考慮し、場所は決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前使われていたダンスや、椅子などを持ち込んでもらっている。また、壁にはコロナ過で中々会えない家族の写真を飾り見てもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方、杖歩行の方が安全に通れるように廊下や手すり前には物を置かないようにしてる。トイレ、浴室、必要な方は自室に多数の手すりを設置。立位や、歩行が安全にできるよう工夫をしている。		